

2年生

お話

クリモモの森

⑧

年 組 名前

時間

20分

点数

クリア40点

/50点

レルのお話②

今夜は白い夜です。

白い夜とは、空にうかぶ二つの月が、二つともにまん丸になって、一番まぶしくかがやく夜の事です。

白い夜は一年に二回しかなくて、何かよいことがおこる「しあわせの夜」ともいわれています。

①「レルにとって、しあわせなことってなに？」

ときかれれば、レルはまよわずこう答えるでしょう。

「お母さんが、家に帰ってくること！」

レルのお母さんは、おしごとで遠い町でくらししています。もう一年よりも長い間、ずっとあつていません。ときどき、手紙がとどくだけです。もちろんさみしいですが、

「お母さんのやりたいしごとなんだ。それに、お母さんにしかできないしごとなんだ」

と、お父さんがいます。そして、

②「お父さんだつて、お母さんといっしょにくらせなくて、さみしいよ」とも、いつていました。お父さんも、レルと同じ気もちなのです。

(わたしとお父さんはさみしいけれど、お母さんはやりたいことができている。大切なおしごとをがんばっている)

と思うと、レルは「お母さんがいなくてさみしい」と思うことが、「わるいこと」のようにかんじてしまうのでした。

(わたしは、さみしい。でもお母さんは、うれしいのかな?)

よくわかりません。ですが、お母さんがやりたいことをできているのは、レルはうれしいです。レルにも、それはわかりました。

広場^{ひろば}で一番^{いちばん}高い木^{たか}のてっぺん。こんなに高いところからでも、お母^{かあ}さんがいる町^{まち}は見^みえません。

「お母^{かあ}さん……」

小さな声^{こえ}で、レルがお母^{かあ}さんをよびます。でもその声^{こえ}が、レルのお母^{かあ}さんにとどくことは、ありませんでした。

「レルちゃん！」

リツちゃんが下^{した}の方^{ほう}のえだから、レルを見^み上げていました。

「あたし、そこまで行^いけないよ。おりてきて、かくれんぼしようよ」

そういったリツちゃんに、レルは「うん！」と元^{げん}気^きな声^{こえ}でこたえると、リツちゃんがいるえだまでピョンとどびおりて、リツちゃんよりもはやく地^じめんまで木^きのみきをかけおりました。

木のぼりも楽^{たの}しいし、お友^{とも}たちとあそぶのも楽^{たの}しいです。

③ でもレルは、心^{こころ}から楽^{たの}しいと思^{おも}うことができませぬ。

レルがもつと小^{ちい}さかったころの、お母^{かあ}さんが家^{いえ}にいたときには、毎^{まい}日^{にち}が楽^{たの}しい気^きもちだったのに。

「お母^{かあ}さんのおしごと、いつおわるのかな」

毎日^{まいにち}そう思^{おも}うのですが、それを声^{こゑ}に出^いすと、お父^{ちち}さんがかなしそうな、こまったような顔^{かお}をするので、思^{おも}うだけにしています。④

今夜^{こんや}は白^{しろ}い夜^{よる}。年^{ねん}に二^に回^{かい}だけの、しあわせの夜^{よる}です。

「お母^{かあ}さん、帰^{かえ}ってくればいいのになー」

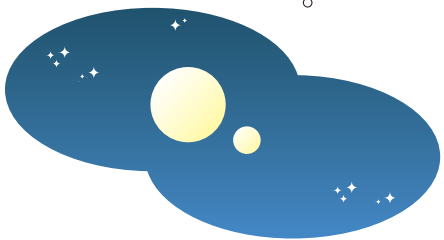
そんなレルのおねがいがかなうのは、

今夜^{こんや}、まん丸^{まんまる}の二^につの月^{つき}が夜^よ空^{ぞら}でかがやき出したところでした。

おみやげをたくさんもったお母^{かあ}さんが家^{いえ}に帰^{かえ}ってきて、

この夜^{よる}レルは、ひさしぶりにかぞく二^{さんにん}人^{にん}でおいしい、本^{ほん}当^{とう}においしいばんごはんを食^たべたのでした。

そしてレルはひさしぶりに、本^{ほん}当^{とう}に楽^{たの}しい気^きもちでわらえたのでした。



1

お話を、声に出して読んでみよう 【10点】

2

お話を読んで、問だいに答えよう 【1つ10点】

(1) ① 「レルにとって、しあわせなことってなに？」 ……とありますが、それはなにですか？

（

）

(2) ② お父さんも、レルと同じ気もちなのです……とありますが、それはどんな気もちですか？

（

）

(3) ③ でもレルは、心から楽しいと思うことができません……とありますが、それはなぜだと思いますか？

（

）

(4) ④ 思うだけになっています……とありますが、なぜ思うだけになっているのですか？

（

）

